

説 教

オープン・チャーチ礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2021年1月10日（日）

主 題：「いったい、どうなってますか？」

—あなたの人生—

テキスト：ヨハネの福音書2章1－11節

はじめに

新年、明けましておめでとうございます!!

1. イスラエルは聖書の舞台となった地で、毎年多くの聖地旅行観光客が訪れていました。しかし現在はコロナ禍によって、観光はストップしています。
 - ・もう昔のことになりますが、私には忘れられない「思い出」があります。それは一緒にイスラエルへ旅をした方が、旅行を終えて、Tel Aviv 国際空港に到着して、いよいよ日本に向かって帰国しようとしていた時でした。彼はそれまで保持していた飛行機チケット（まだEチケットがない時代）がないことに気がつきました。
 - ・そこで彼はポケット、カバン、手荷物など考えられるところ、すべて調べましたが見つかりません。彼は顔色が変わりパニックとなりました。私は聖地旅行の団長として、空港会社のカウンターへ行き事情を説明し、飛行機チケットを再発行してくれるよう頼みました。しかし結果はすべて“No”でした。
 - ・チケットは発券国でないかぎり、再発行できないとのことでした。そこで日本の旅行社へ国際電話を入れて、再発行手続きをお願いしました。そして、やっとのことでは胸をなでおろし安堵しました。しかし一緒にイスラエルへ行ったメンバーは、彼のために数時間も待機させられることになりました。今でも彼の平謝りの姿勢を忘れることは、できません。
2. 皆さん！ 私たちの人生でハプニング（あり得ないこと）が起こりますね。自分は大丈夫と思っているのですが、ハプニングは起こります。
 - ・聖書の中にも、大丈夫と思っていたことが、実は大丈夫でなかった出来事が書かれています。それは約2千年前、イスラエルのカナという村で起こりました。イエスは婚礼（祝宴）に招かれました。ユダヤ人たちの祝宴は盛大で、1週間ほどお祝いが続きます。
 - ・そこで、祝宴で大切なぶどう酒が無くなってしまいました。それは大問題でした。参加者にふるまうぶどう酒は、大丈夫であると考えたはずですが、しかしなくなってしまいました。それは、世話人の準備不足か、あるいは計算が甘かったか、あるいは予想以上に婚礼参加者が飲んだかもしれません。大きなパニックになりかねない状態となりました。
 - ・そこでイエスは、次のように言われました。ヨハネ2章
2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。
 - ・給仕の者たちは、イエスの指示通りにすると、なんと水がぶどう酒に変わりました。それには世話役も驚きました。まずあり得ないことが起こりました。
 - ・皆さん。イエスは水をぶどう酒に変えるという奇跡（マジックではない）を行われました。聖書は次のように記録しています。

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。

- ・イエスがこのようなことを行われたことは、イエスは創造神から遣わされたお方であることを現しています。それは神にしかできない「わざ」であるからです。(ここで現在のカナの様子を語る)
- ・イエス・キリストは不思議なお方です。イエスは多くのわざを行い、イスラエル各地で説教し、病人を癒し、罪ある人々を優しく赦すというわざを行われました。しかし、イエスは生涯の終わりで捕らえられ、十字刑上で処刑されてしまいました。なぜでしょうか・・・。
- ・そしてイエスは墓に埋葬されて三日後、墓からよみがえられました。復活（イースター）です。イエスは実に不思議なお方です。その不思議なお方は、じつは私たちの必要（不足）を補ってくださるお方であります。
- ・私たちが理不尽に思えるような事であっても、イエスは解決くださるお方です。今日、私はそのイエス・キリストについて、皆さんにお語りしたく思います。 2点、お語りします。

大切なポイント

1. 人生にハプニングがある

- ・私たちが覚えなければならないことは、人生で絶対大丈夫ということはないことです。たとえばコロナ・ウイルスです。1年ほど前まで、日本（いや世界）がこのような社会になると、いったいだれが予想したことでしょうか。
- ・世界のコロナ感染者数（2020年12月31日現在）は8,000万人を超えました。死者数も178万人を超えました。そして、この疫病の完全な解決への出口は見えていません。最近ではさらに感染力が高いという「変異種コロナ」が現れてきました。もはや、だれが感染しても不思議ではない状態となりました。
- ・一方、コロナ禍によって、どれほど多数の人々が直接、間接的に打撃を受けているのでしょうか。経済は大きく混乱しました。政治も左右に揺れて混乱しています。思いがけないコロナ禍によって、多数の人々が苦しんでいます。皆さんは、いかがでしょうか。それが、私たちが生活する現実であります。
- ・もし、神がおられるならば、**なぜ**、悲惨な疫病が流行ることを許されたのでしょうか。**なぜ**、多くの人々が命を落としてしまうことを、神はお許しになられるのでしょうか。私たちには、このように**なぜ**という疑問が生じます。
- ・カナで婚礼が行われた祝宴を思い出してください。世話人はじめ関係者は、なぜぶどう酒がなくなってしまったか分からなかったでしょう。しかし現実には、婚礼で大切なぶどう酒がなくなりました。
- ・その時点で、その理由を理解した人は、おそらくいなかったでしょう。しかし、そこには神の御計画があったことは、後で分かるようになりました。
- ・人生で、ハプニングは起こりうることを、まず覚えてください。そして、もし、あなたの人生でそれが起こるとするならば、あなたはどうか対処されるのでしょうか。

2. ハプニングが祝福となる人生

- ・ハプニング（不足、欠乏、出来事、病気等）は、チャンスでもあります。ビジネス界であれば、さまざまな知恵を出し合い、ハプニングを征服する道を探ることでしょう。

それも大変大切なことです。

- ・しかし、カナ村でのハプニングの際はどうかであったでしょうか？ 人々が集まり知恵を出し合ったとは、書かれていません。次のように書かれています。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

1) 必要を訴えること

- ・ここで教えられる点は、ハプニングをイエスのもとに持ってきたことです。つまり必要をイエスに訴えました。ここは私の推測ですが、ヨハネ福音書2章のはじめに、婚礼の席にイエスの母マリア、イエスの弟子、そしてイエスも招かれていました。おそらく、前の章から読んできますと、イエスは、この新郎新婦を知る関係（親戚？）にあったのでは、と思われるます。
- ・ユダヤ社会で弟子を持つには、ラビ（教師）であることが必要です。しかしイエスはユダヤ神学を学んだラビではありませんでしたが、イエスの言動にはラビ以上のものがあつたに違いありません。そこで人々はイエスに従っていき、弟子となった人たちもいました。なによりも母マリアが、「あの方が言われることは、何でもしてください。」と言ったことです。
- ・母はそれほどイエスを信頼していました。イエスならば、この問題を解決できると信じていました。ですから、母マリアはこのように言ったと思います。イエスに問題を持ってきたことは正解でした。

2) 必要をイエスのもとへ

- ・ここで、イエスのことばを少し掘り下げてみましょう。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」

今の私たちがイエスの言葉を聞くと、イエスという人はなんと冷たい人かと思うことでしょう。自分を育ててくれた母マリアに対して、このような口の利き方はないでしょう、と思うかもしれません。その通りです。

- ・しかしイエスがここで言われた言葉、「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」 この言葉には意味がありました。

① まず「女の方」という呼びかけです。ここで使われている「女」(gyne:ギネ)は既婚者の女性を示し、当時は敬意をもって婦人に呼びかける敬語的言葉でありました。

② 次に「あなたはわたしと何の関係がありますか。」という言葉です。

- ・この言葉にも違和感がありましょう。「何の関係がありますか」どころか、母と子の間ですから大いに関係があることは明らかであります。しかしイエスがここで意図としておられることは、そういう血がつながった親子関係を指してはいませんでした。
- ・イエスは、やがてイスラエル（全世界）の人々を救うメシア（救い主）であり、母子の血の関係を断って言われたことばです。すなわち、イエスのご自分がメシアであることを意識して言われたことばでした。
- ・イエスは母マリアとの血縁関係を無視されたというより、それよりもっと大きな関係に目を

止めておられました。血のつながりは幸いです。しかし、いつ切れるか分かりません。神の家族の関係はそうではありません。いつまでも続く関係です。イエスはこう言われました。

マタイ福音書

12:50 だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

③ そして、さらに「わたしの時はまだ来ていません。」と言われました。

- ・「わたしの時」という解釈は、聖書学者の間で別れています。私は次のように理解しております。それは、神が定められ「時」の受難（十字架刑）を指していることです。
- ・ここで使われている「時」（kairos:カイロス）は、神が主権を持ち決めておられる「時」のことです。ギリシャ語にはもう一つ「時」（kuronos:クロノス）を示す語がありますが、これは人間の歴史の年代記的な「時」のことです。私たちはその「時」（クロノス）中で生きています。
- ・つまり、ここでイエスが語られたおことばには、やがて神が決めておられるカイロス「時」（神が決めておられる十字架の死）を意識し、語られたことがわかります。ですからイエスのこの時のことばは、メシア（救い主）として意識を持って語られたものでした。
- ・イエスは公生涯で最初に行われた奇跡で、人類をお救いくださるメシア（救い主）であることを意図し語られたことは、非常に意義深いことです。ここに先を見通し、イエスは語られたことを知ることができます。ですから、このお方にぶどう酒の欠乏問題を持ってきたことは正解でした。

2) 必要は満たされた

- ・母マリアは次のように言いました。

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メートル入りのものであった。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。
- ・イエスは次のように言われました。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。
- ・そこには、ユダヤ人たちは宗教的儀式で使う6つの「水がめ」がありました。多くの聖書学者は数字「6」は不完全数であると理解していますが、ユダヤ教はこの緊急事態で助けとなりませんでした。
- ・皆さん。ユダヤ人には先祖から伝わり、教えが継承されたユダヤ教があります。しかし、祝宴の最中でぶどう酒が欠乏したとき、彼らが信じていたユダヤ教は助けになりませんでした。水

がめ」は用いられたことがわかります。

- ・私たちは、欠乏（不足）や必要が生じた時、どこに助けを求めているのでしょうか？ 多くの人々が人の手によって作られた宗教に助けを求めています。日本には八百万の神々がいます。聖書が教える神は、そのような神ではありません。世界をお造りになられた創造神です。ですから全能の神です。
- ・世界のはじめからおられる神は、当然私たちの人生を予見することはできます。私たちはどこに助けを求めているのでしょうか。

3) まことの助け主と出会う

- ・ハプニングがイエスによって祝福と変えられた背景には、そこにいた人々はイエスとの「出会い」を経験しました。その出会いは大切でした。しかし世話役は次のようでした。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、
2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

- ・どうぞ、覚えてください。世話役は責任者でしたが、ぶどう酒の秘密をしりませんでした。しかしイエスのことばどおりに水を汲んだ給仕の者たちは知っていました。イエスのことばに聞き、お従いした人たちは祝福を見ることができます。

『例話』 「イット」と呼ばれた男

私は米国から日本へこられた宣教師の友人から、このような話を聞きました。

米国でも残念ながら虐待はあります。彼の氏名は David Pelzar といい、8歳の時から5年間、すさまじいほどの虐待を、実の母親から受けました。

- ・彼は名前を呼ばれず“it”（イット）と呼ばれていとは、モノに対して使う語で人には使いません。の彼は自分の体験を次のように語りました。
- ・私は学校から帰宅すると、家の掃除や皿洗いなど、事をさせられ、まるで奴隷のようでした。決めさせておかないと、夕食は抜きでした。10日間、何れもないこともありました。
- ・私は学校で同じクラスの子の弁当を盗み食いして、そのことを知った母親は激怒し、帰宅後に私の喉に指を突っ込んで食べた物をはかせるようにしました。
- ・母親に少しでも口答えするならば、殴る蹴るの暴力はもちろんのこと、ガスレンジの上に手を伸ばされて、火傷を負わせられたこともありました。その他、さまざまな虐待を受けました。
- ・13歳の時に、私は学校の先生に助けられて警察に保護されました。そして里親家庭に預けられるようになり、初めて私は温かい親の愛を経験しました。しかし、私が受けた心の傷は癒されませんでした。「僕が悪い子だから、母から何をされても当然だ」という思いが、なかなか、消えませんでした。
- ・私は里親に反抗して、学校でさまざまなトラブルも起こしました。しかし里親の変わらない愛で、私を包んでくれました。徐々に変化が現れてきました。私は聖書の神の助けを求めました。そし



ました。英語で it 失礼であります。そ

ありとあらゆる仕られた時間内に済まも食べ物を与えら

飢えを忍びました

て真面目に勉強もするようになり、高校卒業後、空軍に入隊しました。その数年後には、パイロットとなることもでき湾岸戦争などに出かけました。

・今の私は、かつての心の傷は癒されました。自分と同じように虐待（暴力）を受けた子どもたちを励ますため、講演活動を始めました。その働きが認められ、レーガン、ブッシュ、クリントンの3大統領から表彰を受けるようになりました。これが私の人生です。

・皆さん。彼の少年時代は虐待を受け、本当にみじめなものでした。しかし彼の人生が変わりました。その理由は次の2つにあります。

① 温かいホーム・ペアレンツ（里親）の愛に包まれたこと

② 聖書の神に出会ったこと

ここに、彼が立ち直る大きな動機がありました。

・今の時代、コロナ禍が支配し、暗い事件や事故が起こっています。いったい、どうなっているか首をかしげるようなこともあります。しかし、助け主であるイエス・キリストを見上げる時に、勇気が出ます。人生には、失望があっても、絶望はありません。

・イエスは言われました。 ヨハネ福音書

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

・皆さん。今あなたは、なぜ自分は苦しみを受けているか不明かもしれません。しかし、大丈夫です。ここに助け主イエス・キリストがおられます。イエスは婚宴の席でぶどう酒の欠乏を、おことばで解決されました。そこでイエスは、生涯を予見する不思議なことばを言われました。カナでののはじめの「わざ」（奇跡）は、後世のすべての人々へのメッセージです。

・いかがでしょうか。あなたも、あなたを愛しあなたの人生を見通しておられるイエス・キリストに、信頼を置かれませんか。そこに真の助けがあります。

ま と め

主 題：「いったい、どうなってますか？」

—あなたの人生—

・今日は、イエスが最初におこなわれた奇跡（水をぶどう酒に変える）の祝福ストーリーから学びました。人生には「いったい、どうなってますか？」と問うような出来事があります。しかし大丈夫です。

・マイナスと思われるハプニングを、プラスに変えるお方イエス・キリストがおられます。このイエスを信頼し歩むことこそ幸いな人生です。最後に次の聖句をお読みしましょう。

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

*God bless you !